

船橋税務協力団体長会 会長賞

これからも人々を支える税金

船橋市立習志野台中学校

第三学年 久保 美優

私たちの暮らしは、たくさんの税金に支えられている。学校の教科書や校舎、道路や救急車、消防車や病院など、日々当たり前のように使っているものの多くが税金によって成り立っている。もし、税金がなければ、安心して学ぶことや暮らすことはできないだろう。私は、そのことを学んでから、「税金はただ国に納めているお金ではなく、社会を動かし、人々の生活を支える力」だと思うようになった。では、百年後の税金はどのようなになっているのだろうか。これからの社会には、様々な変化が待っている。日本では人口が減り続け、高齢化が進み、今よりも少子高齢化が深刻になっていくかもしれない。そのときに必要となるのは、医療や介護、年金などの社会保障を支える税金だ。限られた人々にとつては大きな負担となり、それだけで社会全体を支えるのは難しくなるため、税のあり方を大

きく見直す必要があるだろう。また、人工知能やロボットも大きな進歩を遂げるだろう。現在でも工場や商業施設では多くの人工知能が働いているが、百年後には人間の代わりにほとんどの仕事を担っている可能性が高い。そうなれば、働いて得た給料から税を納めるという現在の仕組みは成り立ちにくくなる。代わりに人工知能などを所有する会社から「人工知能税」のようなものを集め、人間の教育や生活を守るために使う仕組みが必要になるかもしれない。さらに、環境問題は百年後も重要な課題であり続けるはずだ。地球温暖化や自然災害、エネルギー不足など、環境を守るためには多くの資金が必要だ。そこで、「環境保全税」や「再生エネルギー税」のような未来の自然を守るための税金ができる可能性もある。このように考えると、百年後の税金は今と同じ形の税と大きく形を変えてい

る税があるだろう。しかし、どんな時代になっても「税金が人々の助け合いのしくみである」ということは変わらないだろう。税金は、誰か一人のためではなく、社会全体の安心や安全のため使われてきた。百年後も千年後もその本質は同じであるはずだ。私は、未来の税金が人間のためだけでなく、自然や地球を守るために使われてほしいと願っている。そして、その社会に生きる人々が「税金を払うことは未来を守るために必要なことだ」と誇りをもって言えるようになってほしい。そのためにも、今の税金のあり方について、もう一度見直し、無駄をなくして今本当に必要なことに税金が使われるようになってほしい。税金は時代によって形を変え、人々の生活に寄り添ってきた。それは今の時代も、これからの時代も変わらないことだろう。税金が正しく使われ、人々の生活がより充実し豊かになることを願っている。